

日本看護歴史学会

会報

日本看護歴史学会
第23号
1996年3月31日

歴史研究の方法

亀山 美知子

今年もすでに三月目に入った。皆様方は日々、御研鑽を積まれていることと思う。

さて、本会報の第六号、第十七号に歴史研究について触れている。だが、その中で説明は要約された感の強いものであるか、論文の評価に関する編集委員会の規定をベースにした研究の基礎的手続等に言及したもの等々であった。

読者の方々にとっては、いささか判り難いものであったのではないだろうか。その反省の上に立つて、ここに敢えて歴史研究の方法について、あらためて言及することにする。

最近の私の研究から

この研究対象は、残念ながら看護史に関するものではない。だが、

実は出発点は看護史に関する調査が起点となっている。

それは女子留学生第一号のうちの一人、山川捨松（後の大山巖の妻）に関する史料を探していた時のことである。かつて、捨松について知るため、会津若松に四、五年ばかり通ったことがあった。

当初は全くの駆け出しであったから、捨松同様、会津若松出身の山本八重（後の新島襄の妻）の史料探しをしたのだが、詳細を掴むには至らなかった。幸い、教え子の一人が会津若松出身であったことから、捨松に関する文献を探そう頼んだのである。

休暇明けに帰って来た彼女は、同地の図書館で入手した三点ばかりのコピーを持って来てくれた。

現在なら、国会図書館等々ではコンピュータで、件名を検索すると所蔵文献中の該当する文献リストを瞬時に画面に出してくれる。だから、すぐさま文献を請求できる。もし、そのような設備がないとすれば、昭和四〇年代に発行された『人物文献目録』等や『日本史研究』等の雑誌でその年度中に、発表されたものの題目が分かる該当部分を探せばよい。その上で、検索した書籍（先行研究）を読み込むのである。

すでに発表されたものであっても、完全無欠とは限らない。また、執筆者のテーマに対する問題意識は、他の研究者の関心と完全に重なり合うものではない。読み込むうちに、その論文に対する疑問が生じたり、ある事象についてのコメントに異論を唱えたいことが起こる筈である。これらが、次の研究者にとっての研究の動機につながることになる。

研究の展開

さて、前述のように女子留学生第一号の山川捨松について史料を集め始めたのだが、その内に、奇妙な記載があることに気づいた。それは、従来の史実とされたものは、彼女たちが五人で一緒に渡米したことになっているのだが、そ

の内の一人は、別に出発しているのではないかという疑問である。当時の模様については、外務省関係の書籍に久米邦武が記した文書が明治四年の留学生（男女）について報告している。また、近代初頭に創刊された『新聞雑誌』にも女子留学生の名が記されている。

だが、偶然のことであるが、私が外務省で入手したパスポートには、五人の内の一人の女性の名前は見当らなかったのである。にも拘らず、悪質な書籍もある。『明治新聞編年史』の明治四年の項には、五名の女子の記事の下に、恰も五名が一緒に渡航したかのようだ。これは『新聞雑誌』の引用には全く見られないものである。

このように、歴史研究の基本とは、十分な史料の収集が第一である。それも批判出来てこそ、問題意識が明確になる。安易に先行研究者の説に追従する必要はない。それを上回る労力が必要なのだ。

看護界では研究が流行である。だが、以前も批判したがグラウンディルセオリーのなごく基本的な手続きでは、専門的な研究には至らない。歴史研究と実験研究の連続性が異なるのは誰しも知っている筈なのだから。

第十回日本看護歴史学会大会予告

「歴史にみる女と男」

第一〇回日本看護歴史学会大会は農村保健婦の発祥の山形県、旧山形済生館の建物が完全に保存されている街、山形市で開催されます。

TEL〇三三六一二五―一六四二一

◆大会プログラムの概要

△第一日目▽八月二三日(金)

午後一時より講演二題

「歴史に見る女と男Ⅰ」服藤早苗氏
「歴史に見る女と男Ⅱ」亀山美知子氏

午後四時半 総会

△第二日目▽八月二四日(土)

午前

対談「歴史研究をめぐって」

服藤早苗氏と亀山美知子氏

その後会員による研究発表

午後

分科会・懇親会

◆写真展 二三日と二四日の両日

「遊学館」二階ロビーで「看護のあゆみ」と「山形の保健婦助産婦看護婦」写真展を行い、山形市民の方々にも公開します。

◆山形市への交通

電車の場合、東京駅より山形新幹線(つばさ)で二時間四〇分、仙台より山形線で一時間。

飛行機の場合、大阪関空・大阪

◆開催期日

平成八年八月二三日(金) 八月二四日(土)両日

◆会場

990山形市緑町一丁目二一三六

伊丹より一時間、札幌より一時間九州福岡より直行便開始。

車の場合、車社会なので駐車場の多いが、遠方からのドライブ旅行の場合はホテル予約時に予約する。

◆ホテル・旅館

観光地なのでホテル・旅館は多い。リスト準備する予定。

東北地方で初めての開催です。

山形県看護協会、山形県、山形市から財政上、会場の提供等々援助を受け、山形県の会員一同はりきって準備を進めています。ぜひご参加下さい。

日本看護歴史学会

山形県会員一同

第十回大会分科会

話題提供者募集

分科会では、大会での話題提供者を募集しています。例年のように山形学会でも多くの提供者で盛り上げましょう。話題提供者は左記の要領を記入して、お送り下さい。

- 一、内容 研究テーマ
- 要旨・呼びかけ(百字以内)
- 二、期日 六月末日
- 三、送付先

723 広島県三原市学園町一―一
広島県立保健福祉短期大学
高田節子宛
多くの応募を期待しています。

分科会報告は、分科会活動の一環として毎年大会開催時に発表の場をもうけています。その分科会も十回目を重ね記念すべき年を迎えました。山形での大会開催は、分科会活動の基盤を初回大会時より築いてこられた高橋みや子幹事が大会責任者となりますので、大いに盛り上げたいと思います。

昨年の京都大会では、会報二二号に要旨を掲載していますが、「ナイチンゲール研究」「制度史」「冬国史」「産婆教育史」「仏教と看護」「病院史」「看護教育史」「保健婦の歴史」の八分科会があり、それぞれ活発な意見交換がありました。継続して発表する方、新しく発表する方の応募をお待ちしています。

第一〇回大会のメインテーマは「歴史にみる女と男」となっていますが、会員の日頃研鑽している関心分野について話題提供して頂ければ良いのです。研究成果を話題提供し、研究領域の開発、研究方法の検討、史料の発掘、文献などの情報交換など幅広い意見交換

